

時間割コード	G2B45618	開講年度	2026					
授業題目	NEWSのデータサイエンスゼミ					担当教員	伊東 秀一 他	
英文授業名	Seminar:Data Science of News						高野 嘉寿彦	
単位数	2	講義期間	後期	曜日・時限	月曜・2時限		対象学生	全
講義室	共通教育 2 4 講義室			授業形態	演習	遠隔授業科目		備考
信大コンピテンシー 該当								
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素					⇔	【授業の達成目標】	
	大学DP 的確に情報を収集し、理解し、発信する力					⇔	・情報の真偽を自身の視点で調べ、その背景や社会的影響を読みほどこ力をつける。 ・SNSやネット情報が中心の社会において、情報受信者であると同時に自身が情報発信者という意識を再確認し、情報加害者や被害者にならないための作法を身につける。	
(2)授業で学べる「テーマ」	芸術文化、多文化協働							
(3)全学横断特別教育プログラム	ローカル・イノベーター養成コース、ストラテジー・デザイン人材養成コース							
(4)授業の概要	SNSやネット環境の拡張、AIの普及により「情報の真偽」「正確性」が問われる時代に私たちは生きている。情報の基礎となる事実を「データ」のひとつと位置づけ、既存報道機関であるテレビメディアの視点から事実と虚偽を見極め（ファクトチェック）、フェイクニュースに振り回されないための情報読解の現状と在り方を考察する。実際に現在進行形で起こるニュースや社会現象を題材に、受講生個人あるいはグループワークによる課題の考察・議論を行う。成績判断は中間・期末の2回のレポートによるものとする。							
(5)授業のキーワード	・データサイエンス ・ファクトチェック ・フェイクニュース ・メディアリテラシー ・報道機関と言論機関 ・テレビニュース ・ジャーナリズム ・グループワーク							
(6)授業計画	第1講【緒論】メディアとデータサイエンス 第2講【原点】あの日、なぜメディアは間違ったのか 第3講【比較】報道機関と言論機関～テレビと新聞 第4講【考察】フェイクニュースとファクトチェック 第5講【考察】SNS時代の政治・選挙報道 第6講【データを積み重ねる】編集論Ⅰ 第7講【データを積み重ねる】編集論Ⅱ 第8講【データを積み重ねる】実習：ニュース速報 ※中間レポート課題提示 第9講【データを積み重ねる】実習：記者会見 第10講【譬喩】NEWSの数字をリアル化するⅠ 第11講【譬喩】NEWSの数字をリアル化するⅡ 第12講【数字と仮説】未来を映像化する 第13講【噂と事実】都市伝説とNEWSの境界 第14講【言語と事実】テレビキャスターの言語表現 第15講【終論】FactとTruthを読み分ける ※期末レポート課題提示、授業のふりかえり ※各レポートの提出期限は1週間後とする。 ※第1～3講は基礎習得の講義を中心とし、第4講以降はグループでの議論を適宜実施する。							
(7)成績評価の方法	中間・期末の2回のレポート提出と、出席状況・受講態度を加味して評価する。 ●レポートの記述内容：7割 ●受講態度と議論参加の積極性：2割 ●出席状況：1割							
(8)成績評価の基準	・レポート記述において主体的な情報の取捨選択と正確性に対する意識が見られること。 ・ゼミの受講内容が具体的に記述され、自身の視点と考察が明確に示されていること。 ・SNS利用者＝情報発信者としての自覚と、曖昧な情報への危機意識が醸成されていること。 ※上記3項目の充足度合いをもって評価基準とする。							
(9)事前事後学習の内容	・日常的にメディアを通してニュースや社会事象に積極的に触れるようにする。 ・ゼミナールで取り上げた事象に、複数メディアを通して改めてアクセスしてみること。 ・メディアによる報道内容の違いを常に意識し、気付いた点はノートに残し整理する。							
(10)履修上の注意	・国内外で現在進行形で起きるニュースや社会事象を題材に議論考察を行うため、各種ニュースや報道に日常的に関心を持ちアクセスすること。 ・内容は政治・経済・国際問題・事件・事故・サブカルチャー等、ジャンルを問わない。 ・テレビ、新聞、SNS、雑誌など複数種類のメディアを通じて情報に接するのが望ましい。 ・ゼミナールで取り上げた内容は、事後も自身でアクセスし関心と興味を継続的に持つこと。 ・報道で気付いた点、疑問点等はノートに残すなどし、授業の議論で生かせることが望ましい。							

(11)質問,相談への対応	①講義終了後、非常勤教員控室等で個別に対応できます（13:00～15:00頃まで）。 ②本務先のメールアドレスおよび大学用アドレスの双方で個別に対応します。 【ito.shuichi@tsb.co.jp】勤務先 【ito_shuichi@shinshu-u.ac.jp】大学用
(12)授業への出席	全体15週のうち前週から継続した流れで学修する内容が複数あるため、全講義継続出席が望ましい。欠席3回以下を通常評価の対象とする。
(13)授業に出席できない場合の学修の補充	授業内容の大きな欠落を避けるため、各回の冒頭に前週の重要箇所やポイントを再確認したうえで、当日の授業に入る。学生本人から補充の申し出がある場合は個別にレポート提出を課す。
【教科書】	特段指定する教科書はありません。
【参考書】	ゼミナールの進行状況に沿って適宜提示します。必要に応じて教員が該当資料のコピーを配布するので、学生が個別に購入する必要はありません。